

「みんなでつくろう 市民トーク」開催結果（川崎地区）

1 日時等

- (1) 日 時 7月18日（火） 午後7時00分～午後8時55分
- (2) 会 場 榛原文化センター
- (3) 意見交換 市長による市政情報、地区が希望する説明、質問票
- (4) 参加人数 111人



2 地区の希望する市政内容について説明（19:38-20:20）

(1) 榛原文化センター ホール棟について

牧之原市が平成 27 年 5 月より公共施設マネジメントの進め方をスタートしておりますが、平成 28 年 11 月に牧之原市公共施設マネジメント基本計画を発表しています。そこで牧之原市内の旧榛原、相良でどのくらいの施設等が対象になっているのか教えてください。

2 つ目に、相良公民館の存続について議会に請願が出され可決されたと聞いています。相良公民館は耐震基準がないため再整備するにしても莫大なお金がかかりますが、市としては計画に沿って廃止とする考えですか。

私たち旧榛原の住民は文化センターが耐震基準を満たしていないため廃止すると聞かされた時、涙を吞んで市の方針に従いました。しかし、相良公民館を継続するというのであれば、私たちも文化センターを復活していただきたいと思います。大変不便に思っています。

榛原文化センターは海拔 4 メートル程のところに位置していますが、相良公民館に比べれば津波の心配は低いと考えます。市の考えをお聞きしたい。

【回答：杉本副市長】

牧之原市では、本市に適した公共施設の効果的な活用、効率的な維持管理や更新を進めるための具体的な取組を整理することで、魅力的で持続性の高い、健全な都市経営を実現することを目的に、平成 28 年 11 月に牧之原市公共施設

マネジメント基本計画を策定しました。

1つ目の質問ですが、本計画におきましては、学校施設や市営住宅などの公共建築物と道路や橋りょうなどの分類別にその方向性や当面4年間における具体的な取組を記載しています。どれくらいの施設等が対象かということですが、庁舎施設では榛原庁舎及び相良庁舎、文化施設では市史料館や榛原文化センター等、学校施設は広域施設組合管理を別カウントしていますので11小中学校等です。

2つ目の質問ですが、相良公民館については、質問にありましたように市議会に請願が出され採択されました。今まで利用者には大変ご不便をお掛けしています。また現在、ご利用者の皆様に意見交換会を開催し、意見を伺っているところです。

なお、相良公民館の継続使用に掛かる費用としては、あくまで参考値ですが、平成23年度の耐震補強計画において約2億3千万円の概算見積もりが示されています。しかし、この数字には老朽化に係る修繕費用は含まれていませんので、現実的にはさらに多額の費用がかかると想定されます。

榛原文化センターについては、平成22年度の時点で施設の検討を行いました。建物全体の老朽化が進み、ホール棟については、特にロビー（底部分）の耐震性が低く、屋根部分の全面補強を実施しても建物の長寿命化が難しい上に、耐震補強改修工事と併せて付帯設備の更新にも多額の改修費用が掛かることから、建物維持が困難と判断しました。

市内にはすでに相良総合センター「い〜ら」もあったことから、利用者の安全を考えてホール棟は閉鎖し、会館棟のみ耐震補強工事を行うことを、当時の議会や地区役員の皆さんにも説明しました。

その後会館棟は、平成24年度に耐震補強工事を実施し、併せてエレベーター設置、空調機器の更新、防水工事等の一部リニューアル工事も行い、耐震性とともなう利便性の向上を図りました。現在も市民の生涯学習の拠点として、大いに活用いただいています。なお、ホール棟は経年の傷みが進んでいることも踏まえ、来年度以降の廃止に向けて準備を進めているところであります。

【再質問】

今後、文化センターのホール等はどのように処置をしていきますか。

【回答：杉本副市長】

今までは壊すにも起債を借りられない状況で、壊すだけでも1億円ほどかかると言われていて財源すら捻出できませんでした。しかし公共施設マネジメント基本計画を策定したことによって起債も借りられるようになります。今年度、予算計上をしており、取り壊しに関わる設計や費用がどれくらい掛かるのか積算をするための予算措置をしています。

(2) ポーラ跡地と中央幹線について

平成 27 年 10 月に始まった静波地区「安全で豊かな暮らし空間創生」住宅地整備推進協議会において、その後計 6 回ほど会議を開き、ポーラ跡地をどのようにしていくか検討を続けてきました。

特に、中央幹線用地の先行取得と工事を期待しておりましたが、トーンダウンしており、住宅建設もままならないような状況と思います。

ポーラ跡地の開発に伴い、いち早く中央幹線を旧榛原金谷線まで開通する話でしたが、現在の進捗状況と、今後の整備計画をお聞きしたい。

また、ポーラ跡地をどのように活用していくか市のお考えをお聞きしたい。

【回答：杉本副市長】

まず質問の静波地区の「安全で豊かな暮らし空間創生」事業とは、どのようなものかを説明します。

静波地区と細江地区の境に位置するポーラ跡地（面積約 8 千㎡）の土地を、平成 27 年 3 月に、市が購入しています。（参考：約 20,600 円/坪）この土地は、一部が都市計画道路の中央幹線の道路用地として必要になることと、道路用地以外の土地については、津波防災に対応した、緑豊かな良好な居住環境の住宅地を整備することを目的に、購入したものです。

市では、この住宅地の整備計画を具体化するため、区長や地元町内会長の皆さんをメンバーに、事業推進のための協議会を 6 回開催してきました。

しかし、細江地区や他地区での民間開発による宅地分譲地の売れ行きを見ると、現時点での事業化リスクが大きいことから、当面の間は公共の建設工事で発生した良質な残土を利用して土地の造成をし、事業費の削減を図るとともに、地域の皆様が憩いの場やリクエーションの場などに利用できる方策を進めます。

また、中央幹線については、勝間田川の後川橋周辺のルートの見直しも検討していることから、どこから事業着手するかは未定の状況ですが、住宅地の整備計画が具体化してくれば、事業化の検討が必要と考えております。

(3) 総合運動公園ぐりんぱるについて

①野球場整備

観戦用のスタンドが不十分。バックネット裏は山であり、マムシ、スズメバチも生息する。県外を含めた多くの来場者に対し、十分なスタンドもなく快適に観戦応援できる状態ではない。市営球場としてせめて 500 人ぐらい収容できる設備が必要ではないか。

②駐車所問題

ぐりんぱるは駐車スペースが少ないため、大きな大会の開催時には、周辺道路に大型バスが待機駐車する場合がある。

そこで、付近の放棄水田、茶畑を借上げ駐車場整備は考えられないか。水田は圃場整備事業による土地であることは承知しているが、土地の有効利用も含めて検討して欲しい。土地所有者も協力する旨の申し出がある。

他にも、大災害発生時の防災広場としての活用もできるのではないか。

【回答：杉本副市長】

「総合運動公園ぐりんぱる」は、市民のスポーツ振興と健康増進、青少年の健全育成を目的とした社会体育施設で、多くの市民の皆さんに活用していただいています。観戦スタンドについてはバックネット側に 100 席程度で、500 席には及ばない状況です。

現在のところ、観戦スタンドの増設は難しいため、年数回の全国規模の大会では、必要に応じて法面の草刈りを行い、見学者が座って観戦できるように配慮しているところです。

また、自然と隣接している施設のため、マムシやスズメバチなどの被害については、施設管理の中で十分注意を払って予防に努めてまいります。

駐車場について、大型バス等の乗降の際には、ご迷惑をおかけし申し訳ありません。多数の利用が見込まれる場合には、調整池駐車場の解放やグラウンドの活用により臨時に駐車場を増設しておりますが、大きな大会については十分でない場合があります。現在のところ、年数回は不足がありますが、年間通しての駐車場の増設は難しいため、主催者側の努力により、相乗りや海岸駐車場を利用するなど配慮していただいています。当面は運用面でカバーしながらグラウンド利用の推進を図っていきます。

【意見】

駐車場を作ってもらえれば、災害時に防災広場としても活用できるのではないかと考えられます。

【回答：杉本副市長】

規模や面積が現状で分かりませんので、現場を見てから検討させてください。

(4) 航空機騒音問題について

航空機騒音事業に係る協定書の締結が、島田市初倉地域、旧金谷町牧之原地区、坂部区の一部、吉田町で締結され、住民説明会が行われているようであるが航空機が真上を通過する川崎区、静波区の住民への説明、意見の聴取は行われていない。両区の住民参加は必要ないのか。開港前の説明では航路には含まれていないと聞いていたが。

【回答：杉本副市長】

航空機騒音協定（運用時間延長）については、平成 27 年 3 月に島田市、吉田町、牧之原市（坂部空対協、勝間田 3 町内会）で締結されています。

過程の中で、平成 26 年 7 月に自治会行政連絡会で運用時間延長に関する説明を実施し、説明を希望する区は連絡をいただきたい旨を伝えましたが、希望する区はありませんでしたので、騒音協定締結区域以外での説明会は実施しませんでした。現状での騒音に関する説明、騒音測定等については、県で対応可能ですので、市も連携していきたいと考えております。

飛航経路については、風向き等によってパイロットが判断しております。また、機体の大きさで旋回半径が変わりますので、現在の経路となります。

【再質問】

騒音については 2，3 年前に空港管理事務所に直接行って話を聞いたときには、ジャンボジェット機が 1 日に 70 機ほど発着しなければ、騒音の対象にはならないということでした。ただ当初の計画に比べたら、現実的に我々の頭の上を飛んでいくのは便数的にはかなり多いと思います。

こういうところを鑑みれば、協定に入っている他地区の人も、我々を交えて話をしようという意識がないのかなと。

【回答：杉本副市長】

国際基準で騒音の対策を講じなければいけないという環境基準があります。現状ですと、この地域で騒音対策の事業をやらなければいけないというのは、騒音指数（Lden：エルデン）が 57 を超えないと対象にならないと言われていました。この地域で言う一番高い所でも 51 くらいと言われていました。県がそういう話をしたというのは事実だと思います。

しかし空港隣接という事業があり、坂部・勝間田地域に 27 億円の経費が投じられています。市も 3 分の 2、今は 2 分の 1 の付け増しをして事業をしていますが、静波地域については勝間田川下流の中条川の排水ポンプをやるときに空港隣接のお金をもらっています。あるいは朝生の権九川の工事も補助金を入れています。そういった地域の皆さんにも理解をいただいたうえで、関連事業を行っています。今後、そういった話があるということは行政連絡会などの中で話をさせていただければと思います。

（５） 旧片浜小学校スクールバス問題について

旧片浜小学校は、旧校舎から相良小学校までの距離は約 4 km。川崎小学校は、校舎から仁田地区最奥部住宅まで 3.5 km。片方にはスクールバスがあり、片方は徒歩通学。川崎小学校児童への配慮もお願いしたい。

【回答：杉本副市長】

片浜小学校と相良小学校が統合し、学区が変わることにより、片浜地区最奥部住宅までは通学距離が5.5kmとなりました。安全で子どもたちに負担が少ない交通手段とするためスクールバスを導入したものです。

また、片浜小学校に通う児童の保護者の皆様には数々の不安があり、スクールバスはそのような保護者の皆様の不安を少しでも軽減するための、特別な措置となります。

現在、他の地域へのスクールバスの導入は考えておらず、長距離通学の皆様には通学費助成の制度がありますので、ご理解をいただきたいと思います。

【再質問】

片浜小学校の統廃合の時に、5.5kmのところに住んでいるお子さんは川崎小学校に来たほうが早いのではないですか。

【回答：植田教育文化部長】

学区を分けることは難しく、片浜地区の児童は相良小学校へ通学することになります。

【回答：西原市長】

この話でよく片浜の人たちが言っていたのは「片浜小学校が一番新しいから道場と大江の人たちが片浜小学校へ通学すればいい」と。

今、細江小学校の児童は増え、川崎小学校の児童は減っています。以前細江小学校の校舎を改修する時に「細江の皆さんには悪いけども、青池辺りで分けてもらって川崎小学校へ通ってくれないか」と何度も話しましたがダメでした。この話を進めていくと、論理的にはそうしていただきたいのは非常に分かるのですが、なかなかできないということで、ご理解いただきたいです。

(6) 茶業について

お茶の価格が低迷していることから、お茶の景気が思わしくない。市、JA、茶農家等とどのような話し合いをしているのか知りたい。また、他の地域と牧之原市を比較しているのか、参考にしている点はあるのか。

【回答：杉本副市長】

茶業については市の茶業振興計画に基づき、JAなど茶業関係者と経営・販売やPRなど、様々な課題について話し合いを行っており、生産者や茶商さんなどの支援を行っています。

他地域との比較についてですが、補助制度やイベントなど市の施策を検討する時には、近隣市町の情報も収集しております。中でも、補助制度については、

国、県のほか、県内市町などの制度を調査したうえで、慎重に検討しています。生産者の皆さんに有効な補助制度を作り上げるのは、各方面の情報を収集することが非常に大切ですので、他地域の情報は大いに参考しています。

【再質問】

3、4年前に、市の庁舎内にある静岡県立大学のサテライトの先生から、放棄茶園で漢方薬の研究などをしたいという話が町内会にありました。一度会いましたが、その後は立ち消えになってしまったのか、他の地域にいつてしまったのか分かりませんが、そのような話がありました。

仁田地区も毎年見るたびに何割かが放棄茶園になって、山に戻ろうとしている状況です。何かいい方策はありますか。

【回答：杉本副市長】

現在は平らなところでも放棄茶園が出るような状況です。乗用の機械が入らない傾斜地というのは、なかなかやり手がいないということで本当に苦勞をしているところです。何をどうしたらいいか答えが出ていない状況ですので関係者・地域の皆さんと話し合いを進めていく中で、何らかの施策を考えていかなければなりません。

全部を漢方薬ではやりきれません。川根の奥のほうでは、放棄茶園の枝葉を粉々にしてお茶を作ったということも聞いていますが、それも量的には限界があると思いますので、今後の大きな課題だと認識をしています。

3 会場で出た意見・質問（20:20-20:55）

（1） 牧之原市の借金時計についてお願い

市のホームページにある借金時計について、どれだけの人が見てどのように感じているかは分かりませんが、借金が218億何千万円あり、一日いくらずつ増えているということが表示されています。その中で総務関係が6件で5億2,286千円、民生が19件でいくらかと記載があります。総務、民生、衛生、農林水産、商工、土木、公営住宅、消防、教育など、それぞれ分かれているのは良いと思いますが、どんぶり勘定で内訳が分かりません。実際には詳細データがあると思うので、それをホームページに掲載して欲しいです。隠す必要はないですね。

【回答：西原市長】

借金時計というのは、あれは全国共通のソフトがあります。そのソフトに入力すると自動的に計算されますので、市が独自で作ったものではありません。

【回答：内山財政課長】

どんぶり勘定ということではなく、例えば建設であれば道路関係の借金を金額の積み上げデータはあります。現在表示している数字だけでは分かりにくいことは確かですので、分かりやすい表現にするよう検討します。

借金時計というのが数字で変わっていて、200 何億は特別会計まで含めた金額なので一般会計だと 197 億円になります。毎年この借金を返すための予算を 20 億円ほど予算化しています。しかし 20 億円のうち 10 数億は国から交付税として出ているので、市民の税金から返しているお金は実質的にはもっと少ない数億円という金額です。今の表示の仕方が本当に正しいのかも含め、検討させていただきたいと思います。

【再質問】

総額は分かりますが、人によって見たい内訳は異なると思います。道路工事も庁舎の建設にしても、数ページあれば借金の返済にかかる詳細など表示できると思います。

【回答：内山財政課長】

当然ですが、いつ何のためにいくら借りて、これから何年までにいくら返済をするという計画は、決してどんぶり勘定ということではなく、積み上げたデータがあるので、ホームページへ掲載します。

(2) 防災について

ホームページにも載っていますが、70、80 ページもある市の防災計画について、市の職員の皆さんは全て理解ができているのでしょうか。

【回答：鈴木防災監】

市の職員に対しては、年度当初に市の防災計画を全職員に対して説明していますが、全ページに触れる時間はないので、大事なところをかいつまんで説明しています。

説明会だけでは不十分ですから、年に 2 回、総合防災訓練と地域防災訓練で、災害対策本部の各班が具体的にどういう行動をするのか、班毎に訓練を行っています。実践的な訓練ではありませんが、そこで問題点を明らかにして対応を考え、最後に本部会議で各部長から市長へ報告をしています。

また台風が来たり、先日の集中豪雨のときは災害本部を作り、水路が氾濫しそうであれば、建設部に排水ポンプを準備させたりと、教育だけで終わるのではなく実践の中で訓練をして、牧之原市の安心安全を確保しています。

【再質問】

自衛隊が来た総合防災訓練の際に、避難所で家族ごとの仕切りをなぜ用意し

ないのかと防災監に質問をしました。お金が無いから議員に言ってくれといった回答でしたが、改善されていますか。

【回答：鈴木防災監】

私も色々なところに災害派遣で行き、避難所運営について見ています。確かに仕切り板は必要です。それぞれ個人の最低限のプライバシーを確保するために必要だと思いますが、財源をどうするかが課題です。

(3) 防災と病院対応について

防災の基本は自助、共助、公助ですが、公助について伺います。

災害時にはトリアージを行い、重症患者から榛原病院へ送ることになっています。現在、医師が研修医も含めて 20 人弱ということです。合併前には 40 人以上の医師がいましたが、20 人の医師で本当に命を守れるのかという疑問を持っています。藤枝・焼津・島田に聞いてみましたが、そこでは医師が 100 人以上いるが、それでも災害時は厳しいという意見でした。

病院でもトリアージを行います、それも医師が行うので、さらに少ない人数で対応をしなければなりません。阪神淡路大震災の時には、病院のロビーで医師の手が届かないうちに亡くなっていく方が多かったようです。本当に今の体制で地区から榛原総合病院へ患者さんを送っていいのかどうか。

現在の榛原総合病院は徳州会が入っていますが、医師を増やすこともできない徳州会とずっと付き合っていくつもりですか。それとも新たに医局を考えて新しい体制を作っていくのか聞かせてください。

【回答：西原市長】

武井医院長から浜松医大にトップを据え変えたところから、榛原病院の医師の脆弱というのが始まりました。誰が悪いとは言いませんが、私たちの地域は医院長のトップを変えました。その時段階では良かったのですが、その後すぐに研修医制度という医師の制度が変わりました。全国どこもそうですが、大きく医療環境が変わる中で、田舎の医局が弱いところはどんどん撤退にまわりました。

病院の規模で言うと、島田市民病院が 500 床。藤枝市立総合病院が約 600 床。焼津市立総合病院も 500 床で、榛原総合病院も 500 床です。

榛原総合病院は病床数に見合う医療圏ではありませんでしたが、当時の体制の中では島田、焼津、御前崎からも患者を取って病院を大きくしたいと考えていました。その後御前崎が病院を作り、医療圏が減少する中で、500 床の病院を維持することは並大抵ではなかったと思います。

医局が変わり、浜松医大が自分自身の病院さえ守れないという状況の中で、循環器がなくなり、他の医師も撤退していくという状況になりました。

結論からいうと、あの段階で助けてくれる医療法人は日本全国いなかった。徳州会だけが最終的に榛原病院を支えてくれたと、私は今でも思っています。あの時に徳田虎雄さんがここに入ってきてくれなかったら、本当に医療は支えられずにお金を払い続け、さらに吉田町に抜けられたらとてもやっていけない状況でしたので、病院関係者にはご迷惑をかけましたが、当時の選択によって病院が維持できたと思っています。

徳州会は全国に2千数百人の医師がいます。さらに徳州会にはTMA Tという災害医療救護活動を行うNPO法人もあり、緊急時にはすぐに全国の徳州会から医師や看護師、コメディカルが飛んできます。飛行機もヘリコプターも持っています。そういう世界一の医療法人が私たちの所を支えてくれているということですから、いざという時の支援体制はいただけると確信しています。

現状で500床の病院に戻せといっても、これは無理です。私たちの医療圏の人口を考えると、今は200数十床程度。これから高齢者が増えますので、回復期のリハビリなどの需要が増えてくると思いますし、急性期も道路が良くなったので対応できます。

今後、藤枝・焼津・島田の3つの病院が全て残ることはおそらくないと思います。藤枝を中心に各地域と医療連携をしていくことになると思います。

決して徳州会だから助けてもらえない、ダメだということではないと思います。もちろん医師が大勢いて経営が安定した方がいいと思いますが、また高望みをすると破綻に繋がりがねません。ただでさえ、これから30年ぐらいは、病院の建物を建てた借金を返済していかなければなりません。

【回答：高橋健康長寿まちづくり専門監】

先ほどの医師数ですが、常勤ベースで21人、非常勤を換算すると28.8人です。様々な病院から応援していただいております、平成記念病院などから外来の応援医師もいます。

婦人科は非常勤の医師にやっただいてる状況です。TMA Tの関係は、徳州会との約束の中ではすぐに駆けつけることになっています。そういった状況で榛原病院からも東北に医師が行ったこともあります。全国の徳州会病院から、48時間以内にはかなりの医師が集まると予想されます。

【再質問】

徳州会が良い悪いというよりも、医師を増やすことのできない体制でずっと行くのかということを知りました。

徳州会は緊急事態のときに本当に来れますか。榛原病院へ運ぶのは重症患者ですので、医師が来るのを待っている時間はありません。本当に対応できる組織を考えていかなければならない。

【回答：杉本副市長】

医師を増員については、森田医院長以下、徳州会も含めて不足している部分について努力しているところですが、常勤医を増やすには至っていません。

災害時に被災者を運ぶ時、救護所院として榛原総合病院が位置づけられます。その次のステップである重症患者を運ぶ災害拠点病院としては、島田市民病院が位置づけられています。榛原総合病院で対応できない患者は島田市民病院で診察してもらうという一つの医療圏の流れになっています。

本当に助けてくれるのかということですが、私も東日本大震災以降、仙台の徳州会病院に聞きましたが、全国の徳州会の病院から医師が駆けつけて地域の災害医療を行っているとのことでした。

当時は榛原総合病院からも医師や看護師、コメディカルが助けに行っているということですし、大きい医療法人ですので、そういった支援をいただけていると思っています。

(4) 「いのちを守るもり」について

静波海岸の「いのちを守るもり」に 4,000 本の木を植えてから 5～6 年経過していますが、育った木で使えるような木などは、市で把握していますか。

【回答：加茂川建設部長】

勝間田川の左岸側に数年前に、広葉樹など 14 種類を植栽しました。今は生育の状況をみているということで、塩害に耐える樹木がどれなのか選定している状況です。今は枯れる木もありますが、時が経つにつれて淘汰されてくるかと思います。今は結論が出ていない状況です。